

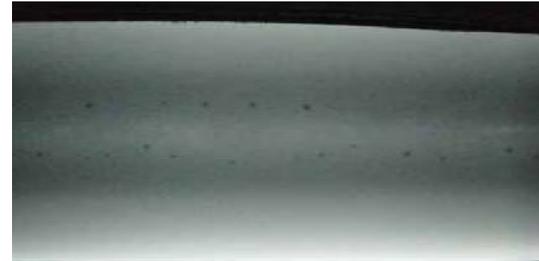
## 溶接トラブル 1. 板切り溶接棒にて溶接したところ多数のブローホールが検出された

・事例 母材に合致したティグ溶接材料が市販されていなかったため、母材と同じ材質の薄板をシャーリングで2～3mm角に切断し溶接棒として使用した。継手部を放射線透過試験したところ、微細なブローホールが多数検出された。



写真1 板切り溶接棒

・原因 シャーリングで薄板を切断した際に、異物が付着したことがブローホールの原因である。



・対策 溶接材料を板材から切り出して使用することはJIS Z3331でも認められている。この場合、板材からシャーリングなどで切断したあとは、カエリを取り除き、酸洗→水洗→脱脂洗浄してから使用することにより、ブローホールが低減できることから、確実な洗浄を実施してから使用するようすることが望ましい。